

文化会館に歴史あり

陸軍→米軍→校舎→役場→そして

西坂戸 大山 茂

毎年3月に開催されていた「市民活動フェア」ですが、今年は2月、坂戸文化会館に会場を変えての開催となりました。

文化会館内では、「くらし展」や「けやき展」なども行われており、その効果もあってか昨年に倍する市民が訪れました。

九条の会さかどのブースでは、今年も「坂戸の戦跡めぐり」の紹介や「9条〇×投票」を行ないながら、市民と9条について語り合う機会としました。

閉会行事の中で、参加各団体からの1分間スピーチがありました。私が担当し、1分間の限られた中で、どんな話をしようかと悩みながら、今回の会場となった坂戸文化会館の「ルーツ」の話をしました。これが、意外にも好評でした。

坂戸文化会館を建てる前に、広い間取りの堅固な木造建築物がありました。元々は旧陸軍坂戸飛行場の兵舎だったのですが、終戦直後にはアメリカ進駐軍の駐屯地となりました。

戦後は学校制度改革で誕生した新制坂戸中学校の校舎になり、1町4ヵ村合併時には坂戸町役場へと目まぐるしく変遷。千代田の地に役場が移転するまで、ひとつの建物がこんなにも変わっていき、跡地にできたのが坂戸文化会館です。



戦後は学校制度改革で誕生した新制坂戸中学校の校舎になり、1町4ヵ村合併時には坂戸町役場へと目まぐるしく変遷。千代田の地に役場が移転するまで、ひとつの建物がこんなにも変わっていき、跡

地にできたのが坂戸文化会館です。

年表にまとめてみると、こうなります。

- 1940年(昭和15年) 陸軍航空士官学校分教場の宿舎として堅固な木造建築物を造成。
- 1945年(昭和20年) アメリカ進駐軍の駐屯地として提供。

- 1947年(昭和22年) 新制坂戸中学校の校舎に転用。
- 1952年(昭和27年) 坂戸中学校が千代田に移転。
- 1954年(昭和29年) 坂戸町と4ヵ村(三芳野、勝呂、入西、大家)合併時の役場庁舎として使用。
- 1972年(昭和47年) 千代田に町役場(現市役所)を移転。直後に木造建築物は取り壊される。
- 1980年(昭和55年) 県立坂戸文化会館が開館。

そして本日、陸軍の兵舎の跡地に建てられた坂戸文化会館で、九条の会さかどが陸軍坂戸飛行場の展示を行なったという、“歴史のお宝”発掘のお話でした。

語り継ぐ会の感想から(2)

- ◆ 「立派な少国民になるぞ」と思っていた鈴木さんが、戦後の教育を受ける中で教師をめざし、子どもたちを伸び伸びと育てられたこと。とてもステキなことだなあと思いました。

私も教員生活を37年間続けました。教員1年目に組合に入り、組合の中で児童観・教育観・社会観をたくさん学びました。組合の分裂はとてもショックなことでした。教育をどのような方向に持っていかうとするのか、しっかりと政治の動きを見ていかなくてははいけないと思います。

鈴木さんが、「戦争賛成という人がいたら、なぜそうなのか話し合えばいい」とおっしゃいました。色々な考えを持っている人がたくさんいます。“話し合う”ことが大事だと改めて学びました。

本日は、貴重なお話をうかがえました。ありがとうございました。(戸来淑子)

- ◆ 声が聞きやすく、話がわかりやすく、さすが小学校の先生だなあと思いました。

また、戦中戦後、貧乏で非常に苦労されたことが話からわかりましたが「自分は非常に幸せ」と笑顔で話され、非常に前向きな方だと思いました。

授業料や奨学金、初任給などの金額を正確に覚えておられ、数字に強い方だと思いました。

私の父が1937年(昭和12年)生まれで昨年亡くなりましたが、鈴木さんは1936年(昭和11年)生まれの同世代なのに、非常にお若く頭もしっかりされていて、お元気だなあと思いました。

九条の会さかど 15周年のつどい

日時 5月31日(日曜日)13時30分～16時

会場 坂戸駅前集会施設(2階)集会室

内容 ただいま検討中(ご意見・ご提案など、お寄せください)

「知らないうちに」戦争となっていた。このことは、現代（現在）にも当てはまるのかもしれませんが。そうならないように自分たちにも考えるべきことがあるのではないかと思います。（**につきい花みず木 平瀬敬久**）

◆ 「戦争語り継ぐ」…という運動は大事なことだしそれは多くの人が語り合っただけでその無残さや非人間性を共有し、同感を共有しあってこそ「運動」として広がって行く。運動とは共感を広げることには他ならない。

一人が喋り、「質問は？」と言われても、それはそれなりのものであり、御苦労様でした、で終わる。

あの時はこうだった、自分はこうしていた、あれはひどかった、と様々な体験が盛り上がってこそ、ではこうしよう！ あゝいうことにさせてはならない、…と共感と決意が生まれる。運動とはそういうものではないか。

この会で気になることは、その点である。常に一人が喋り、それを聞かされ、という姿勢である。

運動とは何か？もう一度再考を。「九条の会」は全国的な運動体として大切なものである。特定の者だけの集まりにしてはならない。（**溝端 加川**）

◆ 生い立ちの順にお話していただいたのでとてもわかりやすかったです。

敗戦までのご自身の具体的な体験談、軍国少年として生きたことと、軍部の発表、空襲、田舎ののかな生活のはざまの中で、次第に矛盾を感じられたのではないかなあと思いました。（**寺内**）

◆ 鈴木さんのお話で印象に残ったのは、1941年に小学校が「国民学校」に変わり、教育の目的が「皇国民育成のため」に変わったこと。そして、この年から軍事教練も始まったこと。なるほど、これが教育の力というものか。

「教え子を二度と戦場に送るな」とは違う答えが返ってきたら、それで×ではなく、そこで話を終わられるのではなく、そこから話をすればいい。白か黒かではなく、混ぜるって方法はないのでしょうか…と。これまた「なるほど！」でした。

絵馬『世界の平和 N・S』(5)

母の想いを受けとめながら

泉町 戸来淑子

昨年の面会時には、ホームで行なう歌レクの話をよくしていました。『花』を歌おうとした時に、思わず手を挙げて、隅田川が出てくる『花』は悲しすぎて歌えません。代わりに元気が出る『リンゴの唄』はいかがですか？と発言したよ

そして、聴いた話だと言ってこんな話をしてくれました。「たくさんの人が火を逃れて隅田川に飛び込んだそう。火傷を負った人も体を冷やそうとして水を求めた。でも川の水が熱湯になっており、体を冷やすどころか更に火傷を負って亡くなった人も多かったそう

だ。川にはたくさんの死体が積み重なっていたそう」

また、最近、こんなことも言っていました。「保険会社（有楽町にありました）の屋上から隅田川がよく見えた。ここは悲惨なところ、みんなが泣いたところだ」。私が1歳7ヵ月の時に、母が私を会社に連れて行き、屋上で撮った写真があります。母はこの屋上から隅田川を見ていたのです。

母が12歳の時に体験したこと。久し振りに会った家族。受験への不安。空襲警報。ギュウギュウ詰めの防空壕。頭から落ちてくる無数の焼夷弾。火の海。焼け焦げたたくさんの死体。どこまでも続く焼け野原。入学したばかりの女学校の全焼。

会社の屋上から見た隅田川。絵馬に『世界の平和』と書いた気持ち。『花』を歌えない気持ち。

母にとって、12歳の時の体験が芯でしょうか？ひ孫たちに同じような体験をさせたくないという強い気持ちが芯でしょうか？

最後に、2014年（平成26年）1月19日に撮ったDVDを観ていただきたいです。母81歳。空を見るように上を向いて敵（かな）わんよ」と言う母…。「戦争を体験したからこそ、戦争は本当にやってはいけないと身にしました。世界中が戦争のない平和であることが一番だと思う」と言う母。幼少期に日本以外の中国人・ロシア人との楽しい思い出も基本にあるように思えます。

母が絵馬に『世界の平和』と書いた想いはとても深いです。今回、母のことをまとめるにあたり、自分の知らないことがいっぱいあることに改めて気づきました。もっともっと学ぼうと思います。このような機会を与えてくださった九条の会さかどの皆さまに感謝いたします。

運営ピンチ！カンパのお願い

九条の会さかどでは、運営に関わる経費をカンパによって賄っています。会場カンパと個人カンパです。

催しを開けば会場費や資料代、毎月のニュースには印刷代や郵送料、講師を呼べば諸経費がかかります。

収入と支出に年ごとのバラつきはありますが、参加者の減少に伴ってかなり厳しい状況が続いており、現在の会計残額は5,917円でしかありません。

運営委員会では、今後についてもカンパで賄うことにしましたが、集まった時に呼びかけるだけでは限界があり、集いには参加できなくても応援したい人はいるはずと、カンパを呼びかけることにしました。

九条の会さかどの活動を、カンパを通じても応援したいとお思いの皆さま、カンパをお待ちしております。

【郵便振替口座】

・加入者名 小林忠夫

・口座番号 00570-1-7977

・通信欄に「九条カンパ」とご記入ください。

今後の運営委員会（会員なら誰でも参加できます）

3月26日、4月23日、5月28日（第4木曜日10時～12時）

会場は坂戸市役所に隣接した勤労女性センター談話室